

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2292200017 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 湖成会 | | |
| 事業所名 | 多機能ホームあった家 | | |
| 所在地 | 静岡県富士宮市大鹿窪151-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年 10月13日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年3月23日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2292200017-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 静岡タイム・エージェント | | |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 4年 11 月 8 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で「安らぎのある暮らし」を提供していくために、職員の担当制を活かしながら、ご家族や地域との関わりを持つことで入居者様の生活の活性化及びその人らしさが出せるような支援を心掛けております。季節を感じられる食事や様々な行事を企画し、事業所の名の通り「あったか」な空間・環境を大切にしています。コロナ禍、感染対策に気を掛け陰圧器装置の導入、使い方の実践、ゾーニングの実践、卓上パーティションの設置等の力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者優先のケアを心掛け、今年度は感染対策に特に力をいれ、ゾーニングの実践研修を行った。大型の陰圧器装置を2台設置しフル稼働させ、以前からアクセルを使い手すりや洗面台、床のふき取りを継続して行っている。職員は防護服やフェイスシールドの使用方法を学び、抗原検査は毎週初めに行っている。法人は研修が充実していて、職員の経験や能力によって様々な研修に参加できるようになっている。また、経験豊富な職員が新人を育てる習慣が身についている。記録はタブレットで入力し、観察力を促すように今年度は「気づき」を1日2回、文字入力する取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人としての理念及びグループホームとしてもそれに基づいた目標設定を毎年更新しており、職員で共有し進捗状況の確認を毎月行っている。 | 法人の理念に基づき、「あった家」と個人の目標を毎年設定している。ホーム長は職員が目標を達成できるように適宜声かけを行い、目標達成の状況を発表している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 行事への参加は控えているも、後日ドライブを兼ねて初詣やどんど焼きに出向き、参拝をするなど地域の方々と出会った際には挨拶をして交流できる工夫をしている。 | 自治会に加入し、コロナで地域行事は中止になっているが、清掃などに職員が参加している。散歩で近所の人に会うと挨拶を交わす関係性を継続し、コロナ後を見据えて以前のように地域とのつながりを深められるよう運営を模索している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進委員会での情報伝達及び認知症キャラバンメイトとして職員を支援し、地元を中心とした活動を行っている。また、中学生の福祉ボランティアを受け入れている。最近では控えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 百恵の郷と合同で2か月に1回会議の開催を予定しているも、コロナ禍において行えていないが施設内の報告に留まっている。 | 自治会長の意向を踏まえ、年間計画として19時から開催していたが、現在は書面開催である。参加者は行政と地域包括支援センターの職員、自治会長、民生委員、地区消防団で法人の事業所と合同で行い、議事録を送付している。 | 利用者家族の参加者は時間の関係で参加が難しいが、今一度参加できる家族を探す努力に期待します。毎回報告だけでなく、参加者の意見を広く集め、運営に活かせるよう工夫に期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進委員の中にも入って頂いているも、コロナ禍において行えていないが施設内の報告に留まっている。 | 所長はグループホーム連絡協議会の打ち合わせや研修にZOOMで参加し、決定事項を職員に伝え共有している。現在は外部研修は行われていないが、開催予定が決まれば職員を参加させる予定である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修は年に1回実施。事故防止対策を事業所内での会議で実施し、ケアのあり方を検討し実施している。また「身体拘束0宣言」を挙げている。 | 指針とマニュアルは整備され、委員会は全職員で構成され、ほぼ毎月委員会を開催している。研修は法人が2回計画し、施設内の具体的な対応については随時話し合っ対策を考え実行している。 | |

静岡県(グループホームあった家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修への参加、また参加できない職員への周知に努めている(部署会議で話しあう)。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内の研修に相談窓口となる職員が参加している。フィードバックを事業所内において実施。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居者ご家族様に対しては、1対1での説明をし、質問等を聞きながら対応しご理解をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会・電話を通して話す場を設けている。職員が受けた情報を管理者にあげ検証を随時行い、窓口として担当職員を設置。苦情については運営推進会議の場で報告。年に1回顧客満足度を調査するアンケートを実施している。 | 法人は毎年「顧客満足アンケート」を行ない、回答率を高められるように電話で促しているが、外部評価用は全家族から回答があった。近所に住む家族は窓越し面会でよく来てくれ、遠くの家族には電話で連絡を取るなど、意見は運営に反映できるよう努めている。 | 写真付きで担当者が利用者の様子を一言載せたお便りを毎月家族に送付している。概ね家族には好評であるが職員異動についてのお知らせの要望があがっていたので対応に期待します |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 面談及び事業所内の会議において意見交換を行っている。 | 職員は年度初めに所長と、10月にはホーム長と面談を行う中で、自分の思いを表現している。ホーム長は介護職も兼任しているので、日常の業務の中でも職員に気づきができるように促している。新人職員にはプリセプターが1年間ついて教育している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年間を通して個人の目標設定を行い、面談を通して進捗状況を確認している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 実務評価等に基づき力量の評価・指導を実施。また研修への参加を適宜実施し、勤務表に取り込んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業所連絡会での情報交換及び同グループ内での研修会参加を行っている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご家族との面談・利用していた事業所より情報を頂き安心して話せる相手であることをご本人に感じて頂ける工夫をしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族との面談・電話連絡を細目に行い、関係を持つことで少しずつ信頼を築ける努力をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 他のサービスを利用していた場合は情報収集に努め、判定会を通し必要としている支援の見極めを行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来る部分の把握に努め、生活の中で生かせる工夫をし支援内容に組み込んでいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月ご家族様宛の手紙を送付し、生活状況等の状況等を伝えている。また連絡を密に行い、相談しあえる関係作りを目指し、行事等への参加呼びかけや交流できる場を設けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 個人情報の流出に留意しながら、面会や地区の方々との触れ合いが出来ていない。 | 以前はボランティアが来てくれたり、小規模多機能やデイサービスの利用者を訪ねて交流をしていたがコロナの感染予防で自粛している。現在、家族とは窓越し面会やZOOMでの面会を行い、車中ドライブ、美容師の訪問などは関係が途切れないよう可能な範囲で行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個人処遇を踏まえながら話を聞く機会を設けることで、不安の軽減に努めている。また関係性を見極めながら日常生活での作業(食器洗いや洗濯ものたたみ)をしながらの関わりや居場所作りの支援に努めている | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後においても介護支援専門員・相談員との情報交換やご家族に対しても相談窓口として助言を行えるよう配慮をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常での気になる言葉や要望を受けた場合は記録に残し、情報をまとめている。必要に応じてカンファレンスを実施し、暮らしやすい環境に努めている。 | ほとんどの記録はタブレットで行ない、今年から観察力を付けるように毎日「気づき」を文字で入力してもらうようにしている。意思疎通の難しい利用者については、夕礼でミニカンファレンスを行い素早く対策をしている。法人は経験や実力に合わせて様々な研修が整備されている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 現在に至るまでの情報収集を関係機関や関係者から頂いている。またアセスメントにて職員への周知に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の健康チェック実施および記録への記入を行って職員への周知に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議にて、ご本人・ご家族・職員・医師・看護師等で意見を交換し、計画作成に努めている。 | 短期目標のモニタリングはタブレットの「モニタリングチェック表」で毎日チェックし、毎月全職員で再度確認をしている。夕礼でミニカンファレンスを行い、毎月再度結果を検討している。それらをふまえ、ケアマネジャーが介護計画書の原案を作成し、職員の意見や家族の意見を聞いて介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録から情報収集に努め、必要に応じてカンファレンスを開きケアの見直しを行っている。またケアポイント表の修正を行っている。 | | |

静岡県(グループホームあった家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院受診など、ご家族の要望に応じ職員同行にて付き添いや施設でのご様子を伝えている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コンビニ移動販売車に来て頂き関わりが持てる工夫、支援に務めている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 要望に沿った対応や職員側からの気づきから随時ご家族や医療機関との情報交換・相談に努めている。適宜「情報シート」を活用して状態について事業所から伝達を行っている。 | 協力医は併設の施設の往診も兼ねているので定期的な往診以外にも 毎週訪問し、利用者の体調について相談する事が出来る。訪問看護師は週1回来てくれ、利用者の体調変化時は24時間対応で相談、処置を行ってくれる。入居前のかかりつけ医を受診の利用者は家族対応で、時には職員も同行することがある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の訪問看護を受ける中で、状態の記録や口頭での伝達・相談に努めている。必要に応じて処置やアドバイスを受け、書面をもって職員に周知できるようになっている。自発的な状態変化なども連携している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 医療機関の相談員との連携を持ちながら定期的に情報交換をしている。早期退院を目標とし、その後対応についてご家族との話し合いを密にとっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時にターミナル指針の説明を行い、アンケートの実施を行っている。必要とする時期には医師を交えて、ケアの方針についてご家族と話し合いを適宜実施。また必要に応じて関係機関との情報交換や検討を行っている。 | 入居時に重度化した場合や終末期について、事業所の方針を説明し、利用者、家族の考えを聞いている。状態変化があれば、医師が家族に状態の説明をし、今後の対応について話し合い支援をしている。看取りの研修は、経験の浅い職員にベテラン職員が状況に合わせた対応について指導している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルに基づいて勉強会や実施指導の機会を設けている。また関連する研修会への参加を行っている(力量に合わせた人選)。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 事業所内での訓練は定期的を実施。地域との協力体制ができるよう地元の消防団の方に来ていただきアドバイスを受ける等の話し合いを行っている。 | 年2回火災想定で夜間の対応も兼ねて訓練を行っている。防災委員会が内容を計画し、通報訓練は年1回、職員の連絡網訓練は随時行ない、地域との協力体制が取れるよう地域の消防団からも訓練のアドバイスをもらっている。備蓄は5日分準備し、消費期限にも気を配っている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人情報に関する研修参加や事業所内においても行動指針に基づいたケアができるよう職員同士が指摘さえる指導を含め、職場環境作りを行っている。 | 職場の環境作り配慮し、職員の経験に応じた研修を法人が用意し職員は参加している。利用者の状況に応じてミニカンファレンスを随時行い、情報を共有して、実践に即した対応をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で、ご本人の何気ない言葉を受け止め、情報として挙げ、支援に努めている。また何かする際には、ご本人の意見をまず聞くよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人本意について事業所会議においても、ご本人の希望を聞き、時間を合わせたりと、適宜業務等を変更できるような支援に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類等を一緒に選んだり、要望を事前に聞くように心がけている。またご本人の状態や要望に沿ってご家族に持ってきていただけるよう依頼の連絡等も行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 昼食のメインはセレクトしている。自ら肉・魚を選び食事形態を体調や要望に合わせて提供している。 | 併設の施設の厨房で調理された食事が届き、昼食は肉か魚の料理が選べる。時にはお楽しみ食を計画し、訪問日当日は鰻屋に鰻を注文するなど食の楽しみを増やす工夫をしている。10時にはコーヒーか紅茶を選んでもらい、15時には甘いおやつと緑茶を提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量を記録に残し、食事以外での水分補給を個々に合わせて行っている。また栄養課で食事を作成し、体重測定を毎月実施している。 | | |

静岡県(グループホームあった家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは毎食後実施している。口内の異常があった場合、歯科医師往診を依頼し、治療を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄に時間を記録。変化等があった場合は、記録から誘導時間を決めている。また、薬の見直しや福祉用具の使用等を踏まえた変更・医療機関への相談を行っている。 | 排泄の記録はタブレットで行い、個々の排泄を把握して2時間から3時間おきにトイレへ誘導しているが、時間に関わらず職員は利用者の様子や訴えを大切にしている。夜間のトイレが間に合わず失敗しがちな利用者にはポータブルトイレを使う事で失敗が少なくなり、自信と安心に繋がっている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 訪問看護師または医師に相談し、運動やマッサージ、カテキンゼリー提供等を取り入れている。状態に合わせて服薬の調整を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に要望に即しているが、適宜職員から声掛けをし、伺いながら支援に努めている。個々の入浴手順書を作成し、安全な入浴を目指している。 | 週2回、午前中に2人、午後1人ゆったりと時間をかけて入浴支援をしている。利用者の状態に合わせて2人介助での入浴支援も行っている。現在は入浴を拒否する利用者はいないが、気持ちよく入浴してもらえるよう職員は入浴への言葉かけを工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 季節によって就寝時間が異なるため、職員は希望に従い入床介助を行っている。また、表現が難しい方に対しても体調等を見極め、和室で休息していただいたりと環境を配慮した対応を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情をファイリングし、職員が把握しやすいようにしている。状態変化により内服が困難な方に対しても医療機関と相談を適宜行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | アセスメントを基に、日常的に支援をしていく中で情報を把握し、目的を持ってもらえる支援内容を提供できるよう情報共有に努めている。また家族にもお話を伺い、生活に取り入れている。 | | |

静岡県(グループホームあった家)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望の際にはご家族に相談し協力を得て外出支援を行っている。また日々の中では散歩やドライブに出かけている。 | 施設の周りを散歩したり、テラスで日光浴、外気浴をしている。時には10時や15時のお茶をテラスで楽しむこともある。感染対策を取りながら、車中ドライブを行ない、同じ町内できれいに咲いている菊の見学に出かけるなど制限された中でも気分転換を図れるよう心掛けている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理は事業所で行っている。ただし買い物等の支払いは本人の力に応じて行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じて電話を利用してもらっている。手紙、メールはご家族から届くことが多いが代筆や代行して行っている。最近ではZOOM面会を行っている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間を広くとっているが、時間や場の雰囲気により生じて仕切る党狭い空間を作り安心できる工夫をしている。 | 居間や食堂は広さが十分にあり、日当たりが良く、居間の壁面には利用者の作品や季節の掲示がある。職員は毎日、除菌効果の高いアクセルで手すり、洗面台、テーブルを拭き、2日おきに床を拭き、更に天窓で換気、空気清浄機2台も取り入れ、感染対策に努めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 和室や縁側を利用していただき、関係性や雰囲気に合わせた環境を適宜提供できるように努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時・入居後にご家族やご本人と相談しながら居室作りをしている。事業所側から提案し、ご自宅で使っていたものを持ってきて頂けるよう依頼している。 | 居室にはクローゼット、洗面台が備え付けられ、自宅で使用していたタンスや愛用しているものを持ち込み利用者の居心地の良い環境を整えている。自室の洗面台で洗顔や髪をとかして身支度を整えたり出来るよう支援している。利用者の多くは日中を居間で過ごし、居室は午睡、睡眠の場になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの表示の仕方の工夫や居室が認識しやすい表示を個別で作成している。平屋建てであり、グループホーム内は歩行器使用においても安全に移動できる。 | | |